

日五十月 磐城時報

本報發行所 磐城石城町平町四丁目
電話 磐城石城町平町四丁目
印刷所 磐城石城町平町四丁目
電話 磐城石城町平町四丁目
電話 磐城石城町平町四丁目
電話 磐城石城町平町四丁目

起上るか？常磐無産陣營

地方左翼運動の始祖

山代吉宗いよく出所

辛苦五年！春立還る喜びに
晴れの日を待つその一家

本縣左翼運動の始祖山代吉宗。一「處女地」常磐地方に「赤」の息吹を最初に吹込んで昭和二年春の常磐大争議の際に數千の労働者を動員、そのリーダーとなつて華やかな闘争を展開した無産闘士山代吉宗(三五)は、四・一六事件に連座する身となり血みどろの闘争生活の餘を先づ收めて昭和五年春、懲役六年の刑に處せられ秋田刑務所に下獄、爾來無産運動の壊滅を他所に服役中であつたが、皇太子殿下御降誕の御慶事により減刑の恩典に浴し、明年四月出所の豫定より一年二月早く、来る二十五日出所することになつたので現在東日記者として樺太豊原町にゐる實弟宗徳君(三三)が秋田まで出迎へ、出所と同時に連立つて歸郷する。湯本町字水野谷の寓居に五年間、雨風につけ思ひを獄窓の我が子の上に馳せせてゐた實母松永(三五)さんはこの吉報に妹敏子(三三)とともに吉宗歸るの日を待たびてゐるといふ、彼等の一家は今や数年ぶりで春たち還る歡喜に沸き返つてゐる。とまれ轉向ばやりの昨今、相次いで戦線から没落して行く同志を尻目に敢然として「崩れた陣營に旗を守つて行かんか！」闘士山代の出所を眼める常磐無産陣營に炬火を燃すものとして檢察當局では今より監視の眼を光らせてゐる。

各炭礦早くも警戒

無産大衆の動向に注目

山代吉宗出獄！これは現在墨つの恐怖であらう。未だ轉向のダイヤ景氣を謳歌狂舞する常磐正式表明をしない彼を迎へて常炭礦當局にとつて或る意味で一弊無産大衆がどう動くか……

我が子の出所を 亡父の位牌に報告

嬉しさに胸わく闘士の母

愛兒歸る——。一昨年常磐共産黨員總檢舉(所謂五・九事件當時活躍する闘士連の陰になつて同志の援護に全力を挙げ、或時の如きはアデトに踏込んだ警察官の一行をバタと睨み、傳家の寶刀を振上げて一喝したといふ男勝りの松永(三五)さんも永き獄窓生活を了へて出獄する息子を戀ふる心は世に世の母と變ることろがない。こみあげる嬉しさのうちに愛兒歸る喜びを斯く語る有難きは母の情だ。
あれ(吉宗)から、獄中で撮影した寫眞を添へて二十五日出獄することになつたといふ辛慘の二字に盡きる。當時を追便りがあつたので寫眞と手紙想するにさんの顔に一抹の暗

快よく迎へん

轉向を祈る
渡邊特高主任談

山代が獄中であつて至極眞面目に服役し減刑の恩典に浴して出獄することになつたのは過去一切を精算する意味で喜ばしい次第だ。今後は兎も角、この際は快よく迎へる積りで同君の轉向を祈つてゐる。

愛妹の將來を慮ふ

人間・山代吉宗の情

最近の獄中書簡

獄中の山代吉宗が遙々湯本町の實母に寄せた最近の書簡に見る如くその走り書きの處どころに猶烈々たる闘志の片鱗を窺ひ知ることが出来るが、殊に今年小學校を卒業する愛妹敏子さんの將來に一方ならぬ心を砕いてゐることは闘士としての反面また「人間山代吉宗」の情愛が溢れて涙を誘ふものがある。
(前略) ボクも今度で獄窓に六回の正月を迎へましたがいッモ元氣で、丈夫で暮してゐますから、ご安心下さい。そのうちに獄の暮しも残るころは十日そこ、ですからヤガラ元氣な顔でお逢ひできることを思ひます。何か、面白そうなお土産話でも楽しみにその日をお待ち下さい。敏子ちゃんも柿の便りも受けてゐました。ヤクザもの、兄へのお心づくし有難くお禮をするよ。どうも何時までも貴ひ辛棒あつかいにされてゐるやうな氣がして恐入ります。
それはどうも、敏子もいよ／＼尋常科を終ることと思ひますが卒業したら何をやるか何になりたいか、これから進んでゆく方針について敏子自身もよく考へておいて下さい。何も焦せることはないから過まりのないやうに確か考へてみて下さい。モチ雲

全然言つて寄越さないが、あれも子供ではないから考へて呉れるでせう。愛思の姿を臉に書いてもう喜ぶに母なる人の胸は沸くのだ！
を掴むやうな、夢のやうなことを思ひ浮べても仕方がないが、これから進んでゆく目的を定め、それにゆくために、いま學校を出てから先づ何をやつてゆくかを具體的に、實際的にきめて欲しいのです。今の世の中では子供でも決して呑氣に暮してはゆけません。なほ春子やツナ子の將來の方針についても本人らのハツキリした考へと決心をよききいておいて下さい。そして云ふまでもなく敏子やツナ子や春子らに對するお母さんのお考へをモット、眞剣に確きおと誤りのないやうに決めておいて下さい。兎角人間は成りに成務りですから時々自分らのやつてゐることを、ふり返つてみて誤りはないかどうかを何ども考へてみる必要が有ります。どうぞ、過去つたことをよく考へてみて輝かしい未來のために新しい、正しい方針を立て、生甲斐のある生活を送つて下さい。
今年は何に雪は少ないやうです。然し霜焼けの手はヤッパリ痛い。デキの悪いガラッペンにはイヨ／＼走りが悪い。この拍子が揃はなくてはお困るが、お困るから、これでお止めおきます。
寒さは愈々益々ひどくなるばかりですから神経痛のお体、

凶作防止委員會

凶作防止委員會は、二十一日平日町團体事務所樓上で第一回協議を行ふ。

植田署管内消防組頭

會は十五日開き春季檢閲日割、消防協會負擔金割當、その他本年度新規計劃に就き協議。

平町料理屋、藝妓屋合同新年

宴會は十五日午後六時から住吉屋本店で。

平町監督會議は

けふ午前九時から開き、各月日つて火防警備を行つたが成績良好であつた。

丹後豫防注射を

平町では十五日から三日間豚丹後豫防注射を施行する。

土木委員會

平町土木委員會は十九日午前九時から開き町有地占用願その他を付議。

谷孫六講演會

(既報)十七會場は時決定、日開かれる谷孫六氏講演會は同日午後七時から平第三小學校講堂、開催することに決定した。

自動車検査場

工事請負協議
平、四倉、植田、富岡四警察署管内自動車検査場支部では、よ／＼平町八幡小路に設置することを決定した。濱通り自動車検査場工事請負に關し十六日午前十時から平署會議室に左記建設委員が參集協議する。

(平)野崎滿藏 (植田)北郷繁七 (四倉)植田三郎 (富岡)鈴木善吉

▲時計萬引 十四日午前十時頃四倉町字仲町時計商神谷源吾方店頭からクローム腕時計一ヶ萬引逃走した者あり届出により四倉署で犯人嚴探中。

景氣好轉か

一六金融順調

▲若者家出 山形縣南村山郡山元村大字小白府佐藤藤三郎(二二)は去月下旬家出行方不明となつたが石城地方の炭礦に住込んでゐるらしいからとて十五日寅母サキから平署へ搜索願。

▲前年と比較して流れが頗る減少して、受戻しが順調になつたことは一般の景氣好轉を物語るとして喜ばれてゐる。

妻を返せ

哀れ男の嘆願
又葉那久之濱町東町九飲食店様

夜 診 療

胃腸病科 内 科

花柳病科 性病科 泌尿器病科 皮膚科 肛門病科

門 專

院 醫 科 性 胃 村 松

(番七〇一電 平町南町)

貨切の御用命は

電話六四〇番

尼子タクシーへ!

是非御願ひ致します

遠乗は特に御相談に應じます

理想的強壯榮養料

血肉トローゼ

高級滋養劑で味甘く女子供も喜んでゐる。

適 血少なく顔色悪き人、胸おどろき、心臓弱き人、大病又は産後の衰弱、過勞疲勞又は天性虛弱者、小兒の榮養不良

一圓 一圓五十錢 二圓

特約店 **大平屋藥局**

平町一丁目 電話六四二番

久 釜屋商店

諸橋久太郎

電話九九

RESTAURANT. TEA AND WINE

洋食 喫茶

コンパル

平町電六六六番

徒弟 數名

至急募集

委細面談

加納活版所

當社取締役工務部長目崎恒男殿昨十三日午後〇時三十分死去致サレ候間此段謹告仕候

昭和拾年二月拾四日

磐城セメント株式會社

父目崎恒男昨十三日午後零時三十分急病ニテ死去致候間此段御通知ニ代へ謹告仕候

追テ二月十六日午後一時ヨリ二時迄築地西本願寺ニ於テ告別式相營ミ可申候

昭和拾年二月拾四日

東京市淀橋區下落合一ノ四一四

男 親戚 目崎 鑲 太
全 高 崎 忠
全 鈴 木 善
友人 岩 崎 清
木 村 清
治 七 秀 一

父堀江工業株式會社取締役社長江口忠一儀去月廿一日突然發病し藥石効無く二日午前八時五拾分死去致候間此段御通知申上候

追而來る三日午後二時不取茶毘に附し十九日午後一時平字長橋町性源寺に於て佛式葬儀相營候

昭和十年二月二日

男 親戚總代 江口 軍 二
堀井 定 一
堀江工業株式會社代表 鈴木 唯 治

吉田眼科病院

平町紺屋町(電話六八番)